



平成19年4月13日
佐賀県教育センター研究課
研究調査担当 林 正昭(係長)
電話：0952-62-5211(内線 395)
hayashi-masaaki@pref.saga.lg.jp

指導に役立つ研究発信を行っています

～ 学校現場の悩みを解消！ ～

佐賀県教育センターでは、研究調査事業の1つとして「プロジェクト研究」を行っています。県の教育課題や学校の要請を踏まえ、所員及び委嘱した研究委員(県内の教職員)でプロジェクトチームを組み、課題に関する調査・分析等を通して、指導の具体的な方策や教育実践に役立つ教材等を提案するものです。

平成18年度分も研究内容については、「研究冊子〔道徳を通して培う情報モラル、低学年 生活・学習習慣指導の玉手箱、安全な理科実験・観察ハンドブック(小学校編)〕」にまとめ、今月12日、13日に県内のすべての公立学校および私立の中・高等学校に配布しました。

1. プロジェクト研究の内容

「道徳を通して培う情報モラル」「生活・学習習慣の育成」「教師のための安全な理科実験・観察」「集団への適応」「食べる力をはぐくむ食育授業」「読む力を育てる国語科指導」の6本をまとめました。

2. 研究冊子・サイトの内容(詳細は別紙 reference materials を御覧ください)

「道徳を通して培う情報モラル」

心豊かなコミュニケーション力を育成する基盤となるように道徳の時間を位置付け、情報とどのようにかかわっていくのか根底にある心から育てようという全国でも類のない先駆的な研究内容となっています。

「低学年 生活・学習習慣指導の玉手箱」

低学年の生活・学習習慣の指導の充実に向けて、教師が心掛けておきたい基本的な考え方と指導のポイントをまとめた構成。近年、課題となったことについてきちんと整理された初の手引書です。

「安全な理科実験・観察ハンドブック(小学校編)」

観察・実験を苦手としている小学校の先生方のためのハンドブックです。各学年単元別に授業場面における安全指導や観察・実験のコツ等について説明しています。理数教育が叫ばれる中で、実験・観察に戸惑う先生方の解決策を意識した充実の内容となっています。

3. 佐賀県教育センターのHPで紹介

プロジェクト研究の内容は、佐賀県教育センターのHPで紹介しています。

URL : http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/index.htm

先駆的な研究：「道徳を通して培う情報モラル」について

これは、全国でも類のない先駆的な研究内容となっています。

インターネットや携帯電話など様々な情報ツールの使用が低年齢化し、子どもたちのコミュニケーション力が乏しくなったと言われる今日、学校現場における情報教育の果たす役割はますます重要になっています。「情報モラル」の育成は、豊かな心をはぐくむ面からも強く求められるようになり、その実践例や資料は学校現場からの需要も大きいものです。

これまで「情報モラル」の指導は、情報ツールを使う際のルールやマナー面からの指導が一般的で、主体的に相手を思いやりながら伝え合う心情を育てるまでには至っていませんでした。そこで、本研究は、心豊かなコミュニケーション力を育成する基盤となるように道徳の時間を位置付け、ルールやマナー面と行動の根底を支える心の両面から育てようという内容となっています。

研究冊子の主な内容は以下の通りです。

「道徳の時間」の位置付け

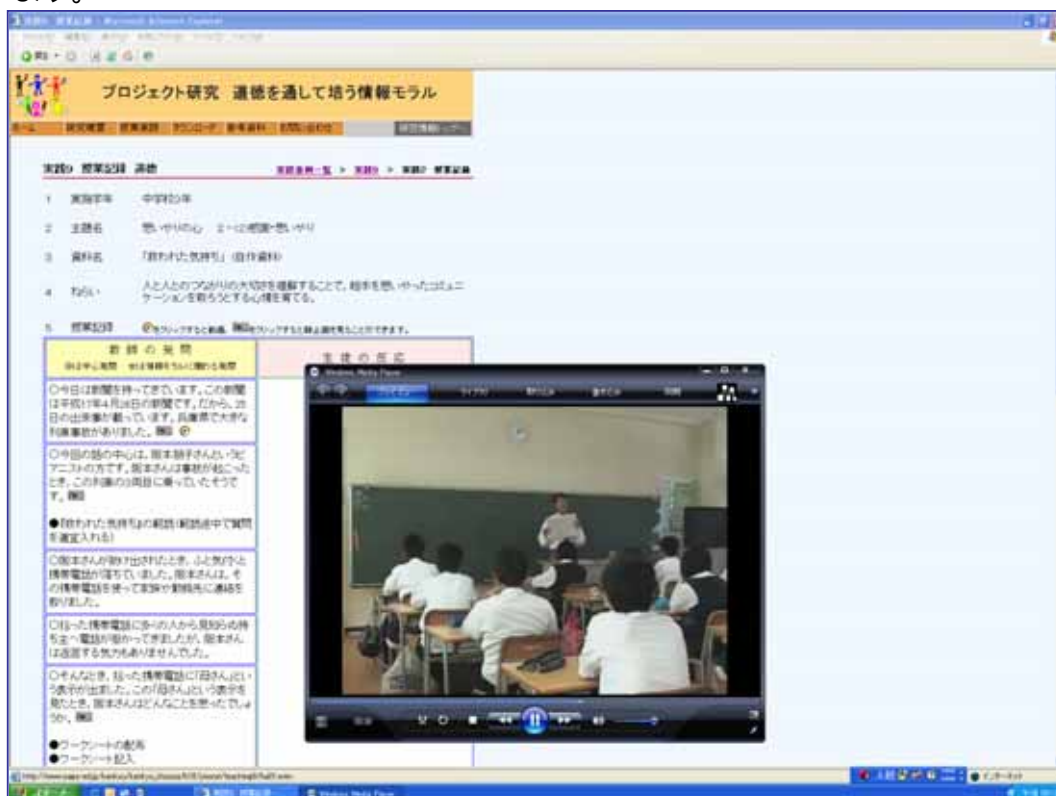
情報モラルと関連のある道徳の内容項目

実践事例

道徳、特別活動、技術・家庭科、総合的な学習の時間などにおける指導案や資料

子どもたちの実態（児童生徒の情報ツール使用に関する実態調査及び考察）

小・中学校を対象にしていますが、高等学校でも十分使える内容であり、これで県内の小学校・中学校・高等学校が一体となつての「情報モラル」育成のための指導ができると思っています。Web では授業の実際を動画や写真で見ることができるようリンクを設定し工夫しています。



Web ページ「道徳を通して培う情報モラル」の一画面

他の2つの冊子についての概要は、以下のとおりです。

「低学年 生活・学習習慣指導の玉手箱」

社会や家庭環境が大きく様変わりしている今日、生活習慣が身につかないまま入学して

くる子や授業に集中できずに歩き回る子など、低学年児童の指導は、困難さを増すとともに、学校現場でも、その指導の在り方は重要な課題となっています。本県では、平成17年度から少人数学級とチーム・ティーチングによる指導の選択制が取り入れられました。生活・学習習慣は、学力の根底を支えるものでありますが、指導法のマニュアル的なものではなく、若い教師は、ベテランの先生の実践を見よう見真似で学ぶのが現実でした。そこで、整えられた低学年の指導体制のなかで、指導の内容面はどうしていくのか、本研究では、日常指導のポイントや家庭との連携の取り方等、低学年を担当をしたときにぶつかる様々な問題に対する指導方法を明らかにしていきました。低学年の学級担任にとって、すぐに役立つことのできる構成です。学級崩壊等が問題となっている今日、生活・学習習慣を身につけさせるための効果的な指導法は低学年の担任に限らず、「学級経営」の術として、全担任が必要とする重要な技量だと考えます。

「安全な理科実験・観察ハンドブック（小学校編）」

本県の学習状況調査において、小学校理科は、昨年、一昨年度と全国の平均よりも高い通過率を示しています。その要因として、児童の学習意欲を高めるような実験・観察を取り入れた授業が多く行われていること、また、若手の教師を育成するために「安全な理科実験」の講座が必修化されていることなどが挙げられます。それでも、中学校・高等学校の専門教科担当ではない小学校の教員にとって、理科の実験は、事故の恐れや、指導のポイントはどこなのか、また準備するものや器具の取り扱いを知らないことから実験に不安をもっているのが現状です。そこで、本研究会が作製した「安全な理科実験・観察ハンドブック（小学校編）」は、写真や図をふんだんに取り入れながら、授業ですぐに使えるように分かりやすくまとめています。特に思考力がいっそう伸びる高学年においては、単元別に「安全な実験のポイント」を記載しており、今後の科学的な思考の伸びにつながるものと期待しています。このように、一般のマニュアルにはない小学校教師からの視点とアイデアを満載したハンドブックです。（中学校編は今年度作成、高等学校編は17年度に作成済み。）

「集団への適応」「食べる力をはぐくむ食育授業」「読む力を育てる国語科指導」の3つはリーフレットを配布し、詳しくはWebページを活用してもらおう形にしています。

